

な

ご

み

っ

う

し

ん

発行日：平成 27 年 10 月 26 日(第 10 号)

発 行：島田療育センターはちおうじ

家族からのインタビュー③です。生まれたときのお母さん、お父さんの素直な気持ちを初めて聞いた子どもたち。感動の主役が自分だと思おうれしい気分になりますね。

所長 小沢 浩

私は予定日より1カ月早く生まれ、お母さんもびっくりしたそうです。うまれたときは、未熟児でへそのおが首にからまって、顔が真っ黒でした。それでもお母さんは、私が産まれたことがうれしくてしょうがなかったそうです。子供を産んでよかったと思ったそうです。

(1年女子)

- 生まれた時病気があった
- 生まれて1カ月で手術をした。
- 夜も眠れないくらい心配した。
- 入退院を繰り返していた。

(2年女子)

• お母さんは感動して分娩台の上で大泣きしてしまった。  
• お父さんは「お母さんは入院するから家に帰ってお待ちください」と看護師さんに言われたので家に帰り、ねむれないのでコーヒーをのみながらわたしの名前を考えてくれた。

(2年女子)

わたしは、えらばれた子供だそうです。わたしのお父さんとお母さんは、血液の相性が良すぎて、お腹の中で子供が育たなかったそうです。わたしとお兄ちゃんの上に2人、わたしの上に1人できたけど、流産してしまったそうです。だから、わたしも兄も治療を受けて生まれました。

わたしがお腹にいるとき、母は食中毒になってしまい、もうだめだと思ったそうです。でも、わたしは大丈夫でした。かし状態で産まれた兄も障害はなく、わたしも元気に産まれたので、母と父は、五体満足に産まれただけでうれしかったそうです。

わたしは、8か月前に産まれる予定だった兄のバトンを受けとり、生きてると言われたので、2倍楽しみ、幸せになってほしいそうです。

(2年女子)



大きい看護婦さんがお腹にのりぼくはその看護婦さんに押されて、やっと出てきたそうです。とても印象的な出産だったので「わたしの赤ちゃん」という雑誌に投稿したら記事が載ったそうです。

すばらしい家庭に生まれてよかったと思いました。これからも、家族を大切にしていきたいと思います。

(2年男子)

わたしが生まれたのは、大雪の降る平成10年1月16日。とにかく今までにないくらい的大雪だったそうで、船原峠の道が通れず、土肥から、沼津・長岡などをまわり、やっとの思いで、病院に着くことができたそうです。生まれてすぐ、顔をみせてくれた時は涙が溢れ出てきたそうです。

本当に無事に元気に生まれてくれて、良かった。本当にありがとうございました。

(2年女子)



すぐにでも子供を授かりたかったが、なかなかできなかったのが、病院で検査をしてもらった結果「子供ができてにくい」と言われ、目の前が真っ白になった。それから一年間病院に通い、念願の子供を授かった。もしかして、子供は無理かもと思っていたのですごくうれしかった。

(3年男子)

- 生まれる前からあやめってなまえだった。
- 兄が超たのしみにしてたらしい。
- 目があかなかった。
- みんな楽しみにしてた。
- 父は男だと思っていた。

(1年女子)

わたしは、予定日より1週間遅れて生まれました。陣痛がきても、なかなか生まれず、母は、階段の上り下りを繰り返し、自然に産まれるまでに、1日半もかかったそうです。大きなうぶ声と共に私は生まれたそうですが、父は仕事で、そばにいらなかったのが、へその緒は、母が自分で切ったそうです。思ったより太いへその緒を切るのに勇気がいったそうですが、母は、お腹の中でつながっていた事を実感し、また、元気に生まれてきてくれた事に感動して涙が止まらなかったと言います。病院の先生に、「元気な女の子ですよ」と、母の胸の上に私をのせて、見せてくれたそうです。

(3年女子)

(奇跡がくれた宝物 小沢浩著  
クリエイツかもがわ より)

